

《第2回子ども読書ボランティア研修会》

【趣旨】

令和元年に公布・施行された「視覚障害者等の読書環境の整備の推進に関する法律」（読書バリアフリー法）を受けて、滋賀県教育委員会では令和4年3月に「滋賀県読書バリアフリー計画」を策定しました。

すべての子どもたちが読書を楽しめるために、支援の必要な子どもたちの多様な個性について理解を深めるとともに、子どもの特性に応じた読み聞かせの方法や絵本の選び方などを学び、読書ボランティアとしての活動の幅を広げる機会として研修会を開催しました。

【日 時】 令和6年2月7日（水）13：30～16：20

【会 場】 湖南市立甲西図書館 視聴覚室

【参加者】 62名（会場31名、オンデマンド31名）

（学校図書館の担当教諭、学校司書、公立図書館職員、読書ボランティア、学校図書館の行政担当者など）

【内 容】 ① 県の取組の案内

「滋賀県読書バリアフリー計画について」滋賀県教育委員会事務局生涯学習課

② 講演

演題「どの子にも読書の喜びを ～支援の必要な子どもたちとともに～」

講師：元公立小学校教諭 ^{むらかみ}村上 ^{ときえ}勅江 氏

③ 交流会・意見交換会

4～5人のグループに分かれて意見交換を実施。

● 県の取組の案内

令和4年3月に策定した「滋賀県読書バリアフリー計画」の目的や目指す姿、これまでの施策の展開等について生涯学習課員から説明を行いました。

また、会場にはオーディオブック、デイジー図書、LLブック、点字つき絵本などのアクセシブルな書籍等を展示し、参加者の方々に手に取って見ていただきました。



● 講演

村上先生からは、障害のある子どもたちの特性を理解することの重要性から始まり、御自身の実践に基づく選書や読み聞かせのノウハウが詰まった御講演をいただきました。

読み聞かせの事例に関するお話では、子どもたちの注意を引き付けて、読書に親しむことができるようなアプローチの工夫を御紹介いただきました。「見開きで1場面」

「内容の繰り返しやリズム感」「コントラストのはっきりした色彩」「安心感のある結末」といった選書の視点を具体的な絵本を交えて説明いただいたことで、ボランティアの方々にとって実践に生かしやすいものとなりました。子どもたちを巻き込んで楽しめるレクリエーション、道具を使った読み聞かせの組み立て方など、長年学校現場やボランティアに携わってきた村上先生ならではのアイデアが盛りだくさんで、熱心にメモを取られる参加者もいました。

子どもたちの発達段階はそれぞれ異なるものの、個々に寄り添った読み聞かせを行うことで、読書の楽しさを伝えられるということを再確認し、障害のある子どもへの読み聞かせに対する理解が深まる有意義な御講演となりました。



● 交流会・意見交換会

研修会の後半では参加者たちが少人数のグループに分かれ、「支援の必要な子どもたちに何ができるか」をテーマとして意見交換を行いました。読書ボランティアや学校司書、公共図書館司書、県立視覚障害者センターなど様々な現場で活動される方々が参加されており、それぞれの現場における子どもとの向き合い方、日頃感じている課題意識などについて活発に意見が交わされました。

グループごとの意見交換の後は、全体交流を行いました。「子どもたちのニーズをどのように把握するか」「支援や連携先をどうするか」などの具体的な問題提起や、地域連携コーディネーターとして活動されている方からの発表もあり、参加者の皆様がネットワーキングを深め、活動の質を向上させる機会となりました。



● 参加者の感想

○ 講演

実践経験に基づく御講演をいただき、選書のポイントや読み聞かせの手法が参考になったという御意見を多数いただきました。

- ・ 絵本の色について参考になった。カラフルなものではなく本当に良いもの、子どもに響く絵本を気を付けて選んでいきたい。
- ・ 子どもの好きな本の選び方、モノトーンや好きな色等が決め手になることもあり、子どもたちに合わせたやり方が理解できた。
- ・ 子どもは何に興味があるのか分からない。たくさん本を分野を区切らずに提供していくということを聞いて、子どもたちにとってたくさん本に触れてもらえる機会を持つようにしていきたいと思った。
- ・ 単に本を読むということだけでなく、聞き手の子たちと会話して考えさせたり、体を動かしたりなどのアイデアをいただき、ぜひやってみたい。聞き手が受け身で聞くだけでなく、刺激になるし、読み手との距離も近付くことができると思った。
- ・ バリアフリー読書は、読み手・指導者側の工夫一つで、いろいろな手段があることや、同じ絵本でも選ぶ視点が異なれば、ハンディキャップのある子にも有効に活用できることが分かった。

など

○ 交流会・意見交換会（自由記入欄）

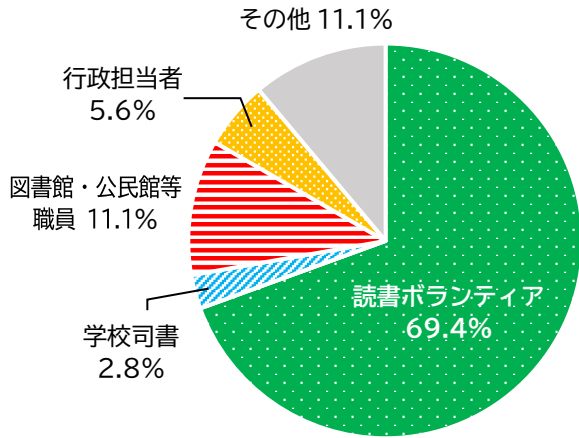
異なる所属の参加者と交流でき、刺激を受けたという反響をいただきました。本研修会で得た学びや気づきを今後の取組に生かそうとする御意見もありました。

- ・ グループワークの時間はもっとほしい。仲間と感じられることが活動維持の力になる。
- ・ 同市内でも交流する機会が無かったので、こういう機会は不定期でもほしい。
- ・ 読書バリアフリー計画を広く周知してもらい、推進して欲しい。

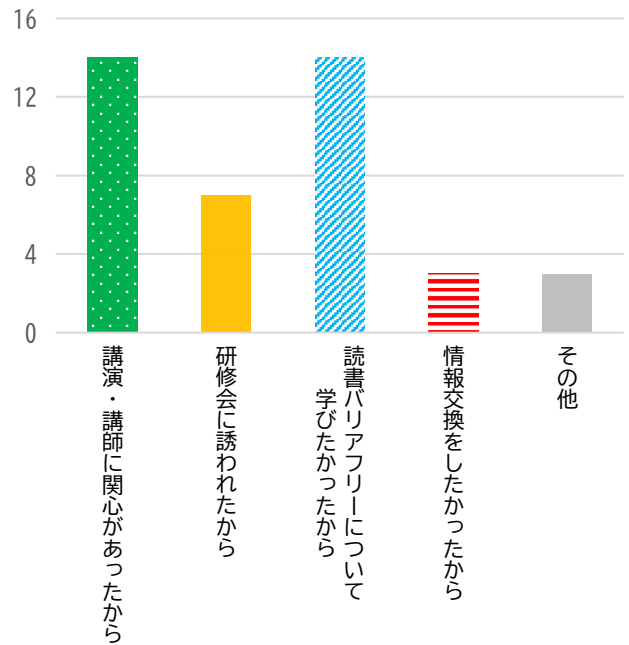
など

● 参加者アンケートの集計結果 (n=34)

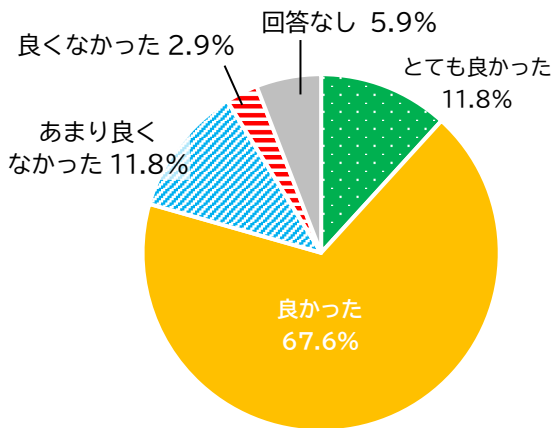
参加者の所属・職種
(複数回答可)



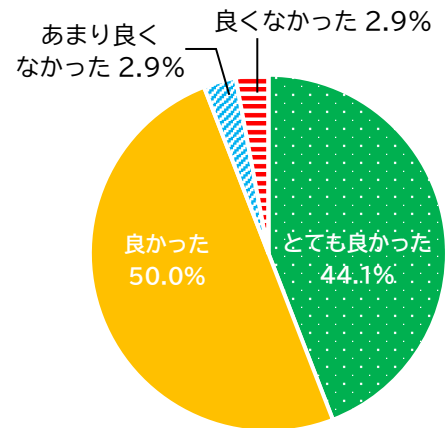
参加の動機 (複数回答可)



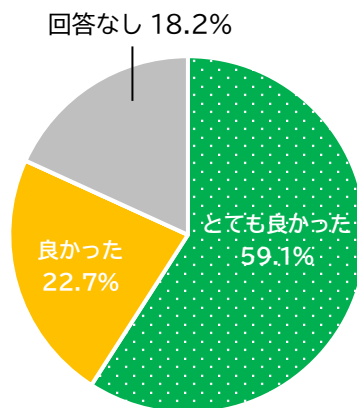
満足度評価



県の取組案内



講演



意見交換会